

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2022年11月11日

【四半期会計期間】 第55期第2四半期(自 2022年7月1日 至 2022年9月30日)

【会社名】 丸紅建材リース株式会社

【英訳名】 Marubeni Construction Material Lease Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 井ノ上雅弘

【本店の所在の場所】 東京都港区芝公園2丁目4番1号

【電話番号】 (03)5404-8200(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 新井祐宏

【最寄りの連絡場所】 東京都港区芝公園2丁目4番1号

【電話番号】 (03)5404-8200(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 新井祐宏

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)  
丸紅建材リース株式会社 北関東支店  
(埼玉県さいたま市浦和区高砂2丁目10番3号イチカワビルV内)  
丸紅建材リース株式会社 千葉支店  
(千葉県市原市八幡海岸通11番地1)  
丸紅建材リース株式会社 横浜支店  
(神奈川県横浜市西区伊勢町2丁目95番)  
丸紅建材リース株式会社 名古屋支店  
(愛知県名古屋市中区栄2丁目2番12号NUP伏見ビル内)  
丸紅建材リース株式会社 大阪支店  
(大阪府大阪市西区靱本町1丁目8番2号コットンニッセイビル内)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第54期 第2四半期 連結累計期間	第55期 第2四半期 連結累計期間	第54期
会計期間		自 2021年4月1日 至 2021年9月30日	自 2022年4月1日 至 2022年9月30日	自 2021年4月1日 至 2022年3月31日
売上高	(百万円)	8,560	8,670	19,103
経常利益	(百万円)	686	570	1,356
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(百万円)	509	428	1,003
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	583	664	1,106
純資産	(百万円)	14,226	14,792	14,694
総資産	(百万円)	31,362	30,307	31,947
1株当たり四半期(当期)純利益	(円)	152.89	131.88	301.11
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)			
自己資本比率	(%)	43.8	47.2	44.4
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	1,505	1,081	1,082
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	99	84	191
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	1,844	791	2,249
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	1,957	1,244	1,038

回次		第54期 第2四半期 連結会計期間	第55期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 2021年7月1日 至 2021年9月30日	自 2022年7月1日 至 2022年9月30日
1株当たり四半期純利益	(円)	82.55	55.59

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。
- 2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 財政状態の状況

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は、受取手形、売掛金及び契約資産の減少額10億51百万円、電子記録債権の減少額6億48百万円などにより、前期末比16億40百万円減の303億7百万円となりました。

負債合計は、支払手形及び買掛金の減少額10億31百万円、その他流動負債の減少額7億12百万円などにより、前期末比17億38百万円減の155億14百万円となりました。

純資産合計は、自己株式の取得による減少があったものの、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上などにより、前期末比97百万円増の147億92百万円となり、自己資本比率は2.8ポイント増の47.2%となりました。

#### (2) 経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間（2022年4月1日～2022年9月30日）におけるわが国経済は、緩やかに持ち直しの動きが見られましたが、エネルギー価格高騰等を起因とした物価の上昇による海外経済の減速リスクが懸念され、依然として不透明な状況が続いています。

当社グループが属する建設業界におきましては、堅調な公共投資に加え民間建設投資も底堅い動きが見られますが、資材・原材料価格の高騰等により受注環境は厳しさを増しました。

このような環境下、当社グループの業績は国内ではコストアップの抑制、採算性の向上に努めましたが、一部案件がずれ込んだこともあり、前期比減益となりました。

また、海外事業会社ではタイ国のタイ丸建(株)や中国の瑞馬丸建(安徽)工程支護科技有限公司は、コロナ禍から回復基調にあるものの、依然として工事着工延期や進捗遅延等の影響を受け、採算面において厳しい状況となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は86億70百万円（前年同期比1億10百万円、1.3%増）、営業利益4億35百万円（同1億20百万円、21.7%減）、経常利益5億70百万円（同1億16百万円、17.0%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益4億28百万円（同80百万円、15.9%減）となりました。

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

#### 重仮設事業

売上高は66億75百万円（前年同期比88百万円、1.3%増）となりましたが、一部案件がずれ込んだこともありセグメント利益は7億1百万円（同96百万円、12.1%減）となりました。

#### 重仮設工事業

受注済み工事業案件の進捗により売上高は13億21百万円（同1億12百万円、9.3%増）となりましたが、一部工事の採算悪化もありセグメント利益は40百万円（同15百万円、28.3%減）となりました。

#### 土木・上下水道施設工事業

設備工事の低迷により、売上高は6億72百万円（同90百万円、11.8%減）となりましたが、土木・上下水道施設工事や工場プラント工事の採算改善によりセグメント利益は40百万円（同5百万円、15.4%増）となりました。

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

### (3) キャッシュ・フローの状況

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、10億81百万円（前年同期比4億23百万円の収入減）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益5億70百万円の計上や売上債権の減少額17億円による増加と、仕入債務の減少額9億97百万円による減少などによるものであります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、84百万円（前年同期比14百万円の支出減）となりました。これは主に、当社工場設備を中心とした有形固定資産の取得による支出85百万円などによるものであります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、7億91百万円（前年同期比10億53百万円の支出減）となりました。これは主に、借入金の減少額2億11百万円、自己株式の取得による支出3億円と配当金の支払2億66百万円によるものであります。

以上の結果、当第2四半期末の現金及び現金同等物は、前期末比2億5百万円増の12億44百万円となりました。

### (4) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

#### (資本の財源)

当社グループの資金需要は、足元では建設用重量仮設鋼材(建設機材)の購入費・工事費・整備加工費・運送費ならびに工場設備投資に伴う支出であり、また今後中長期的には、国内では中期経営計画に基づくM&A・資本参加や新商材の開発、海外ではタイ丸建(株)での建設用重量仮設鋼材の追加購入や新規合併事業のための投資資金であり、これらの資金需要に備えてまいります。

その資金の財源は、営業活動による収入で確保しておりますが、不足する場合は国内の金融機関からの借入により調達しており、その借入について相対での借入枠を十分確保するとともに、長期・短期のバランスを考慮して安定的な資金調達を行っております。また、当社と連結子会社の間で資金の融通を行うなど、当社グループ全体での資金の効率化を図っております。海外の持分法適用関連会社であるタイ丸建(株)の資金需要に対応するため、現地金融機関からの借入れの一部について、同社の株主である当社とItalian-Thai Development Public Co.,LTD.が債務保証を行っております。

#### (資金の流動性)

当社は、期初に開催される取締役会において、年間の資金調達方針を審議の上決定しております。また、より効率的な資金管理を行い、キャッシュ・フロー経営を徹底するために、月次単位で資金予算を管理、更新するなど、資金予算制度の充実を図り手元流動性を確保しております。なお、当社では適正な手元現預金の水準について特に定めておりませんが、当社の定例支払日である月末日において支払資金が十分に確保できる様に資金繰りを行い、また今後、新型コロナウイルス感染症により資金繰りに影響が生じた場合に備えて必要となる現金及び預金の残高を確保するとともに、各取引金融機関との間で借入枠の十分な確保に努めております。

### (5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

## 3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	10,000,000
計	10,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (2022年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2022年11月11日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	3,429,440	3,429,440	東京証券取引所 (スタンダード市場)	単元株式数は100株であります。
計	3,429,440	3,429,440		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2022年7月1日～ 2022年9月30日		3,429,440		2,651		662

## (5) 【大株主の状況】

2022年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所 有株式数の割合 (%)
丸紅株式会社	東京都千代田区大手町1丁目4-2	1,167	36.79
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11-3	175	5.53
丸紅建材リース取引先持株会	東京都港区芝公園2丁目4-1	125	3.95
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内2丁目1-1	110	3.47
株式会社りそな銀行	大阪府大阪市中央区備後町2丁目2-1	89	2.82
株式会社ライラック	大阪府大阪市北区梅田1丁目3-1-700	85	2.68
株式会社常陽銀行	茨城県水戸市南町2丁目5-5	74	2.36
丸紅建材リース従業員持株会	東京都港区芝公園2丁目4-1	40	1.27
日本製鉄株式会社	東京都千代田区丸の内2丁目6-1	38	1.21
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6-6	37	1.18
計		1,944	61.27

(注) 1 上記のほか、当社所有の自己株式256千株があります。

2 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は次のとおりであります。

日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) 175千株

3 株式会社みずほ銀行から2021年12月7日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書の変更報告書において、2021年11月30日現在、以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として2022年9月30日時点における実質所有株式数の確認ができないため、上記の「大株主の状況」では考慮せず、株主名簿により記載しております。

なお、大量保有報告書の変更報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (千株)	株券等保有割合 (%)
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町1丁目5-5	59	1.72
みずほ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目3-3	70	2.06
アセットマネジメント One株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目8-2	38	1.13

## (6) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

2022年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 256,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,155,300	31,553	
単元未満株式	普通株式 18,140		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	3,429,440		
総株主の議決権		31,553	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式が30株含まれております。

## 【自己株式等】

2022年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 丸紅建材リース株式会社	東京都港区芝公園2-4-1	256,000		256,000	7.46
計		256,000		256,000	7.46

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2022年7月1日から2022年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2022年4月1日から2022年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、太陽有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。



## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,038	1,244
受取手形、売掛金及び契約資産	5,227	4,175
電子記録債権	1,946	1,298
建設機材	8,615	8,258
商品	709	728
材料貯蔵品	255	256
未成工事支出金	47	47
その他	334	282
貸倒引当金	29	27
流動資産合計	18,146	16,264
固定資産		
有形固定資産		
土地	8,027	8,027
その他(純額)	1,116	1,084
有形固定資産合計	9,143	9,112
無形固定資産	5	4
投資その他の資産		
投資有価証券	4,022	4,368
退職給付に係る資産	102	109
その他	540	464
貸倒引当金	13	14
投資その他の資産合計	4,651	4,926
固定資産合計	13,801	14,042
資産合計	31,947	30,307

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,713	4,681
電子記録債務	1,002	1,038
短期借入金	2,879	2,253
1年内返済予定の長期借入金	1,085	1,050
未払法人税等	125	101
契約負債	865	1,076
賞与引当金	220	249
その他の引当金	53	23
その他	2,170	1,457
流動負債合計	14,116	11,931
固定負債		
長期借入金	2,140	2,590
退職給付に係る負債	23	23
その他	973	969
固定負債合計	3,137	3,582
負債合計	17,253	15,514
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,651	2,651
資本剰余金	924	924
利益剰余金	8,414	8,576
自己株式	136	437
株主資本合計	11,853	11,715
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	310	319
土地再評価差額金	1,975	1,975
為替換算調整勘定	93	341
退職給付に係る調整累計額	39	40
その他の包括利益累計額合計	2,340	2,596
非支配株主持分	501	481
純資産合計	14,694	14,792
負債純資産合計	31,947	30,307

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
売上高	8,560	8,670
売上原価	6,889	7,082
売上総利益	1,670	1,587
販売費及び一般管理費		
報酬及び給料手当	528	510
福利厚生費	128	131
地代家賃	89	88
退職給付費用	5	11
賞与引当金繰入額	147	188
貸倒引当金繰入額	0	-
その他	214	221
販売費及び一般管理費合計	1,113	1,152
営業利益	556	435
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	15	18
持分法による投資利益	99	110
その他	40	34
営業外収益合計	155	163
営業外費用		
支払利息	19	15
その他	5	13
営業外費用合計	25	28
経常利益	686	570
特別利益		
固定資産売却益	7	-
特別利益合計	7	-
税金等調整前四半期純利益	694	570
法人税、住民税及び事業税	125	86
法人税等調整額	58	75
法人税等合計	183	162
四半期純利益	510	408
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失( )	1	20
親会社株主に帰属する四半期純利益	509	428

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
四半期純利益	510	408
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1	9
退職給付に係る調整額	3	2
持分法適用会社に対する持分相当額	73	249
その他の包括利益合計	72	256
四半期包括利益	583	664
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	581	684
非支配株主に係る四半期包括利益	1	20

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	694	570
減価償却費	103	94
退職給付に係る資産の増減額(は増加)	17	9
貸倒引当金の増減額(は減少)	11	0
受取利息及び受取配当金	15	18
支払利息	19	15
持分法による投資損益(は益)	99	110
売上債権の増減額(は増加)	1,551	1,700
棚卸資産の増減額(は増加)	79	352
仕入債務の増減額(は減少)	944	997
未払消費税等の増減額(は減少)	68	11
引当金の増減額(は減少)	18	1
その他	314	432
小計	1,587	1,173
利息及び配当金の受取額	116	31
利息の支払額	19	14
法人税等の支払額	178	108
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,505</b>	<b>1,081</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	97	85
その他	1	0
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>99</b>	<b>84</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	695	626
長期借入れによる収入	-	1,000
長期借入金の返済による支出	865	585
リース債務の返済による支出	19	12
配当金の支払額	265	266
自己株式の取得による支出	0	300
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,844</b>	<b>791</b>
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	438	205
現金及び現金同等物の期首残高	2,396	1,038
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,957	1,244

【注記事項】

(会計方針の変更等)

当第2四半期連結累計期間  
(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27 - 2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。この適用による四半期連結財務諸表への影響はありません。

(追加情報)

当第2四半期連結累計期間  
(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う会計上の見積りに用いた仮定は、前連結会計年度の有価証券報告書の「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1)連結財務諸表 注記事項 (追加情報)」の記載から重要な変更はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

保証債務

連結会社以外の会社等の金融機関からの借入に対し、次のとおり債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
当社従業員(住宅資金)	1百万円	1百万円
タイ丸建株	2,700 "	2,502 "
	(733百万BAHT)	(656百万BAHT)
計	2,702百万円	2,504百万円
(Italian-Thai Development Public CO.,LTD.の再保証額)	(1,257百万円)	(1,152百万円)

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
	現金及び預金勘定と一致しております。	現金及び預金勘定と一致しております。

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年5月14日 取締役会	普通株式	266	80.00	2021年3月31日	2021年6月4日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年5月11日 取締役会	普通株式	266	80.00	2022年3月31日	2022年6月2日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年11月9日 取締役会	普通株式	126	40.00	2022年9月30日	2022年12月7日	利益剰余金

3. 株主資本の著しい変動

当社は、2022年5月11日開催の取締役会決議に基づき、自己株式159,200株の取得を行っております。この結果、当第2四半期連結累計期間において、自己株式が299百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末において自己株式が437百万円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結損 益計算書計上 額(注)2
	重仮設	重仮設工事	土木・上下水 道施設工事等	計		
売上高						
一時点で移転される財	5,374		313	5,688		5,688
一定の期間にわたり移転 される財	1,212	1,209	449	2,871		2,871
顧客との契約から生じる 収益	6,587	1,209	762	8,560		8,560
外部顧客への売上高	6,587	1,209	762	8,560		8,560
セグメント間の内部 売上高又は振替高						
計	6,587	1,209	762	8,560		8,560
セグメント利益	798	56	34	889	332	556

(注) 1 セグメント利益の調整額 332百万円は、主に報告セグメントに帰属しない当社管理部門に係る費用であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結損 益計算書計上 額(注)2
	重仮設	重仮設工事	土木・上下水 道施設工事等	計		
売上高						
一時点で移転される財	5,398		291	5,689		5,689
一定の期間にわたり移転 される財	1,277	1,321	381	2,980		2,980
顧客との契約から生じる 収益	6,675	1,321	672	8,670		8,670
外部顧客への売上高	6,675	1,321	672	8,670		8,670
セグメント間の内部 売上高又は振替高						
計	6,675	1,321	672	8,670		8,670
セグメント利益	701	40	40	782	346	435

(注) 1 セグメント利益の調整額 346百万円は、主に報告セグメントに帰属しない当社管理部門に係る費用であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。



(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2 四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2 四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
1 株当たり四半期純利益	152円89銭	131円88銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 (百万円)	509	428
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	509	428
普通株式の期中平均株式数(株)	3,332,912	3,249,911

(注) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

2022年11月9日開催の取締役会において、2022年9月30日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

- |                        |            |
|------------------------|------------|
| (1) 中間配当金の総額           | 126百万円     |
| (2) 1株当たりの金額           | 40円00銭     |
| (3) 支払請求権の効力発生日及び支払開始日 | 2022年12月7日 |

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年11月11日

丸紅建材リース株式会社  
取締役会 御中

太陽有限責任監査法人  
東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 陶 江 徹 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 上 西 貴 之 印

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている丸紅建材リース株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2022年7月1日から2022年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、丸紅建材リース株式会社及び連結子会社の2022年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。